

第五回平林祭り

先月の10月25日に大阪市住之江区平林南1丁目で木に触れよう第五回平林祭りが開催されました。天候は祭りが終了した4時半くらいに少し崩れましたが、何とか曇りで一日を無事終えられたと思います。

私は一回目の平林木材祭りから参加していますが、今回から主催者のスタッフの皆様が平林の若手の平林フォーラムから社団法人平林会に変わった初めての平林祭りでした。関係したスタッフの皆様ご苦労さんと一言御礼の言葉を述べたいと思います。

さて平林の木材祭りの歴史は五年目です。去年は大阪市長の平松さんが来場されたり、衆議院議員の柳本卓司さんが来場されたりしました。今回は住之江区の府議員半田実さんと市議員の高野さん、東さんがお見えになったくらいでした。平林祭りは政治家を呼ぶのが目的ではないですが、政治家が来たがる様な祭りにする必要は無いのでしょうか。団体とか組合とかは何故必要なのでしょうか、その目的は、国民一人一人ではどうしようもない事を、一つの地域に暮らす庶民の地元の声を吸い上げて皆が共通する目標を見出し圧力団体として政治的に圧力を掛けるのも大事な組合活動ではないのでしょうか。

平林は昭和40年代から50年代は確かに木材の町でした、しかしここ十年で木材の町から多種多様な産業が進出して、もはや木材の町ではなくなりました。この事を既成事実として最初に進出した材木屋も受け入れて、どうしたら平林と言う町が繁栄するかを考えるのが我々の仕事ではないのでしょうか。

以上の事を考えて街起こしの為の祭りとはどう言うスタイルが良いかと考える時期に来ているのではないかと思います。

平林は現在阪神高速道路松原線の工事から搬出される土砂で堀を埋め立てる計画が進んでいます。この堀の埋め立てが将来何を意味するかと考えた時、容易く将来ビジョンを考えるのは簡単なことでは有りません。しかし平林で共に仕事をしている多種多様な業種の方達が知恵を出し合い、活気有る町に変える一つの集まりが平林祭りの将来ではなかろうかと思えます。



写真は今回の平林祭りのイベント親子木工工作コンクールで平林会会長から表彰状を受け取られる所の写真です。

このイベントは凄く地味では有りますが木材普及の為に大事なことで有ったと思います。

こう言う事もしっかり実行しながら材木屋の強みを上手く利用して新しい街作りに織り込んで新たな戦略を立て実行に移す時期が来ているのが平林の実情だと感じた今回の第五回平林木材祭りではなかろうかと私は思います。

政権党が交代しても我々住民の生活は全く変わりません。我々住民自治が有って暮らし、生活、商売があるのだと思います。全国各地で色んなイベント『大阪府知事の橋下氏が東京マラソンに習って大阪マラソンを計画していますがこれも大阪を発展させる政治的な行事です。』が開かれています、我々も頑張って街作りに貢献する必要が有ると思います。

新聞に取り上げて頂いた服部雅章

木 材 新 聞 第2075号 (第三種郵便物認可) (2)

服部雅章氏が語る

「無垢へのこだわり」

工業化・効率化へのアンチテーゼ

「木材の虫、木材のバカ」を標榜する岸和田の服部雅章氏(服部商店社長)の「写真Ⅱ」が

9月24日(木) 午後7時から JR芦屋駅前 の「ラボック」で開かれた「すまいがっこう」の講師として招聘され、参集した塾生を前に「木を愛しむ」をテーマに持論を展開した。同氏は「木の伝道師」として毎月「服部新聞」を発行、現在1300部に達している。その新聞が縁となって建築家との輪が広がり、「字面ではなく生の声で本当の木の良さを伝道願いたい」と声がかかり、この日実現した。

同氏は配布した「良質木材と付き合う為の手引き」知らない人はバカを見る」のレジュメに沿って話を進め、本物の木のサンプルを場内に回覧しつつ「カタログ表示に騙さ

れるな！樹種はこうやって見分ける」のテーマからスタートした。確かにカタログでよく見る「サクラ」と「サクラ調」や「ケヤキ調」等の表示は紛らわしい。参加者に本物を見分けるポイントを具体的に説明したあと「目の前のコストや使い勝手ばかりを追求し、作り手の顔が見えない材料を選びすぎる」と安易に流すすぎる現状を危惧し「日本は何故環境に悪い木(不法伐採)ばかり使うのだろうか」と問題提起した。また同氏は「大壁工法と工業化製品の弊害が日本の森林を荒廃させた」としてそのアンチテーゼとも言える大好きな「無垢材」の良さを強調、「材木屋は木を見るプロです、木味の違いが分かるのは材木屋だけです。材木屋を信頼して欲しい」と訴えた。更に、木材を安く購入する方法として①サイズ(木取りし易い)②用途と具体的な仕上げ③割高でも乾燥材の使用、を列挙して「木材は高い」とされている既成概念の払拭に努めた。

また、広葉樹の専門家らしく「日本しかない広葉樹は4種類、マカバ、セン、ホウ、カツラです。中でもセンは唯一欧州に家具材として輸出されています」と述べ、豊富な日本の木の中で世界一の品質を誇る樹種がたくさん存在する事実を紹介した。最後に「建築士・木材業者・施工業者が連携して消費者に説明すれば本当の良い家が建つと思う。当社は技術を伝承します。一緒にやりませんか？」と呼びかけて講演を閉じた。

「施主も住宅生産者もござって国産・地産木材を使いましょう」というキャンペーンが8月からスタートした。主体は国産材住宅普及推進キャンペーン事務局(後援・林野庁)。同事務局はキャンペーン期間中(来年3月まで)のシンボルとして設定したキャラクタークタール写真Ⅱのネーミングを広く一般から募集している。募集要項は次の通り。

◇内容Ⅱ シンボルキャラクターととも「ボク、国産材からうまれました。日本の木、

22型ハイビ、特別抽選で5名発表Ⅱ

だいたいすつくとばもよるとがつき◇応募方「ネット」え情報ナ、HORI-KUN◇締め切

大阪平林の友好3団体(大阪港木材倉庫・大阪市製材業協組・総合木材協組)に

関西木材市場が加わったゴルフ対抗戦第11回スリーウッドゴルフコンペ

スリーウッドゴルフコンペ

第11回

左木万雄氏 [関西木材市場]

念願達成

上記の写真は木材の業界紙東洋木材新聞に掲載していただいた記事です。記事の説明の前に東洋木材新聞と言う新聞社の説明が必要だと思います。木材新聞も全国紙の新聞も有れば地方紙の新聞も有ります。東洋木材新聞は関西が地盤の木材専門の大手新聞社です。材木屋と言う職業は凄くレパートリーの広い職業です。少なくとも数えても約十種類の材木屋が有ります。その全てに精通しているのが東洋木材新聞です。

ところで服部新聞を初版から購読していただいている方は、服部雅章と言う人間はと言う人間かは理解して頂けるものだと思っていますが、途中から購読していただいている方はまだまだ解からない事も多かろうと思います。

上記新聞には、私の思い『無垢へのこだわり』を書いています、私の思いは他にも沢山あります。

- 1、木材業界はエンドユーザーに対して木の良さを伝えていない。
- 2、材木屋の商売は今までは本当は黒子に徹するのが正しいと思っていたが、それが正しくないと感じている事。
- 3、ネットと言う広告媒体が出来たが、本当の正しい情報がエンドユーザーに伝わっていない事が多く、ネットの誤った情報のせいで建築の設計をされている建築士さんの仕事にプラスにならず逆にマイナス要因

になりつつある。

4、今後科学技術が発展しても、住いでの癒しを感じ楽しい生活環境を育むのは、自然の恵みで有る木の良さと有ると思います。その良さは今後益々必要になって来るのに拘わらず木その物よりソーラー発電等の設備ばかりに目が向きすぎているのを少しでも木に向けて欲しいと言う思い。

5、日本の伝統文化を培う日本人の心を支える物は、日本人らしく生きると言う事。その為には変革しても良い物とそうでない物が有る。木作りは日本人が培ってきた2000年の歴史に通じている。その伝統文化の職人芸（大工・左官屋・タイル職人・材木屋も含めて）を伝承する必要が有る。それが以前は多くの雇用を生んでいた。現在の日本の経済システムは、ただ目の前のコストだけで物事を考えている。

工業化その物が正しいと言うとおり一辺倒の考えのせいで変革してはいけない物にも手を付けて、ある意味一定の内需が有る国内の木作りの産業(国内林業から住い作り・家具作り等の木に携わる産業全て)に打撃を与え、結局バブル崩壊以降も先進国の中で唯一経済成長をしていないのは日本だけになってしまった。

まだまだ色んな要素が有って今の材木業界の閉塞状況になっていると思います。自民党の長期政権の為の官僚依存の体質になってしまったことも有ると思いますが、今日まで日本人が戦争にも巻き込まれず過ごしてこられた事を幸せだと思います。しかし今一度日本人って何と言う議論をして、守る物とそうでない物を仕訳して行動する必要が有ると思います。

期待します本当の政治を

去る8月30日の総選挙で自民党が惨敗し、民主党が政権を担うようになりましたが、日本国内でのマスコミの報道は凄くヒートアップしています。そのお陰で国民全員が政治に興味を持つようになった事は非常に良いことだと思います。私の発行している服部新聞は政治的な事は余り取り上げませんが、これだけ日本人全員が政治に目を向けているので少しは良いかと思ひ書きます。

先ほどの記事にも書きましたが、守る物とそうでない物が有る。守る物とは日本人の下町社会を構成する物ではないかと思ひます。下町社会は近所付き合い等が主人公に思えますが、元自民党の平沼氏は天皇制が下町社会を構成する要件の一つだと仰っていました。私はそれが正しいのかそれとも間違っているのかは解りませんが、私は平沼氏の言葉にある意味考えさせられました。

我々は戦後高度経済成長を果たしました。アメリカと旧ソ連の対立した世の中のお陰で64年も平和に過ごせました。しかし日本以外の外国は急速に変化をしています。この変化は凄く激しく素早いものです。この変化はこれからも直接戦争と言う手段を取る事を日本人には要求しては来ないと思ひますが、それ以外の形でじわじわ日本人に圧力が掛かってくると思ひます。それは食料問題か、それとも天然資源の輸出制限なのか解りませんが、何らかの圧力が掛かると想像できます。

政治とは国民に将来及ぶ危機を事前に予測して、国民にわかり易い言葉で丁寧に説明して、将来の日本国はこう言う形の国作りが望ましいと説明し辛抱する事は辛抱させるように仕向けるのが仕事だと思います。

自民党が大敗した理由は、族議員政治だとか、官僚政治だとか色々言われていますが、本当にそれだけでしょうか。私は違ふと思ひます。日本人は二十年ほど前よく使われた『国民皆中流』と言う言葉が有りますが、日本人は保守的な国民で有る事は間違いないと思ひます。

保守の反対の言葉は革新です。革新とは急速に物事を変えることを意味しています。この事を日本人は好みません。政権を担う民主党は革新政党とは言っていない。自民党的なやり方を変え、外交などの機密情報は別として情報公開をしながら政治を動かそうとしているように見えます。

民主党の新しい政治家を見ると前の職業が、旧財務省、旧経済産業省、旧日本銀行と官僚OBが多数います。自民党も同じです。そんな中我々が新しい政権を選択したのです。族議員その方達が悪いのではなく、政権交代を過去にしていたら癒着した族議員は多く生まれなかったのではなかろうかと思ひます。

族議員が悪いのではない。政治家は族議員の有る意味塊である。政権交代を重ねたら本当に国家国民の為の族議員が現れるようになる日本の世の中を期待します。

木材をもっと丁寧に使う必要が有るのではと思います。

現在の日本国内の木材消費量はすごく低迷しています。供給側から見ると海外からの入荷量も激減し、国内のスギ・ヒノキを除く森林資源の伐採量も激減しています。これが日本国内の現状です。

片方目を海外に向ければ、アメリカ本土の状況は凄く変な動きをしています。アメリカ西部の森林地帯は森林その物を投資家が積極的に買い付けしているのです。昨年のリーマンショック以降、世界中のお金を集めるヘッジファンドを代表する投資家は、投資する物を穀物・原油・鉱物資源だけではなく、木材を生み出す森林まで幅広く投資活動をしているのです。今まで森林に投資する事は他の物に投資するよりメリットが少ないと思われてきたのですが、しかし他の資源と違うメリットに彼らは気づいたのです。森林は価格が低迷していれば、伐採を控えることでリスク回避が可能な訳です。伐採しなければ、木は太りますので将来の報酬は増えるわけです。彼らが見る森林資源の見方と日本人の森林資源に対する見方が全然違うのに気が付きます。

もう一度国内の森林資源に目を向けると確かに日本国内の木材資源は有ります。しかしスギ・ヒノキばかりです。優良な広葉樹資源は枯渇しています。北海道で開催される銘木市は昨年比約半分の出材状況になっています。日本国内しか手に入らない樹種、カツラ・ホオ・セン・マカバ・マザクラ・シュウリ・シナ・キハダ等の所謂広葉樹原料のザツモノの生産数量は激減しています。

又北海道における製材工場のロシア産原木の在庫量は国内の建築が全く振るわない為に思うように出荷できず滞留しているのが現実です。



左の写真は北海道の物です。昔北海道には四つの産地が有りました。帯広地区・北見地区・旭川地区・札幌地区の四つが道産広葉樹の主な産地なのです。この四つは大雪山と日高山脈を結ぶ北海道の屋根から見ると西側に有るのが、札幌地区です。真ん中に有るのが旭川地区。東側に有るのが帯広地区。北に有るのが北見地区なのです。

この四大産地は各々が優良な広葉樹を生産する特徴が有りました。各々の産地のお客の層も特徴が有りました。四つの産地に各市場が有ったのです。それが今現在旭川地区のみになったのです。

この説明でも解かる様に道産広葉樹原料は減り続けているのです。

ところで最盛期の北海道には広葉樹専門工場の製材工場のラインが約100有りました。今残っているのは賃引き工場を含めて広葉樹製材工場は約10位です。それだけ工場数が減っても北海道に現在在庫されているロシア産広葉樹原料が上手く裁けないのです。

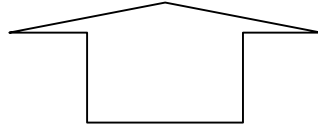
話が少しそれますが、二十年くらい昔インドネシア産アガチス原木が輸出禁止になった事が有るのですが、この時名古屋のアガチス原木専門の材木屋が何社か有りました。その内1社が約三万立方のアガチス原木を大量に輸入したのですが、アガチス原木の一番良い産地のインドネシア材が輸出禁止だったので、上手く売れて儲かって裁ける筈だったのに、裁けなかったのです。当時二番手の産地だったマレーシア材がインドネシア材に変わって輸入されたのです。当時の記憶を辿ると値段から見ると質ほどにマレーシア材は劣っていませんでした。現在北海道に有る広葉樹原料の内ロシア産原料の占める割合は50%を遥かに超えています。国内産広葉樹原料は私が思うのに広葉樹の年間必要数量から見ると精々20%くらいしかないのではと思います。

先々国内産広葉樹原料の供給が決してゼロにはなりませんし、国内に有るからこそ、必要数量以外を多く伐採する必要も有りません。要は国内で物作りをして頂いている作り手の方々が外国生産材では出来ない価値を持った商品作りを心を砕いて頂いてエンドユーザーの方々が満足して購入していただける値打ちの有る商品を手早く作って裁ける仕組み作りは出来ないのかと真剣に私は考えています。

服部商店は作り手の方々と情報を共有し如何に上手くエンドユーザー様が喜んで頂けるか一緒に考え、行動したいと考えております。

展示即売会開催のお知らせ

F A X 0 7 2 - 4 2 2 - 8 5 7 7



来年の1月に展示即売会を開催したいと思います。当日来社されて決済していただける方に服部商店のホームページ(<http://www.hattoriwood.co.jp/>)に掲載しています**全商品をその日限り20%オフ**の大サービスセールを行ないます。

アンケートを御願い致します。

1、展示即売会に興味がある

はい

いいえ

2、1の問いにはいの方に御願ひします。

* 1月16日が良い

はい

いいえ

* 1月17日が良い

はい

いいえ

* 1月30日が良い

はい

いいえ

* 1月31日が良い

はい

いいえ

会社名	
担当者名	
〒	
ご住所	
電話番号及び ファックス番号	

（株）服部商店

596-0011 大阪府岸和田市木材町 16-1

TEL 072-438-0173

服部商店展示即売会場です。



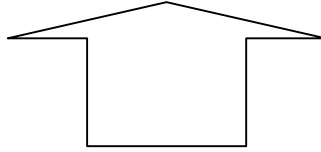
服部商店のホームページアドレスは <http://www.hattoriwood.co.jp/> ですがグーグルにて服部商店と検索すれば服部商店のホームページにアクセス出来ます。

上記の写真はごく一部の写真です。商品は彫刻用材（レリーフ・能面用材）・カウンター・オリジナルテーブル（完成品）と凄く多くのアイテムが揃っています。

この日限りの展示即売会（蚤の市）です。今回の企画は日頃服部新聞を読んで頂いている方限定です。価格もこの日限りの即売会です。遠くて来場出来ない方は下記の用紙にて申しつけ下さい。来年1月15日までFAXもしくは郵送で受け付けます。ただし15日必着にてお願い致します。

ただし決済は代引き着払いにてお願い致します。

FAX 072-422-8577



* 引き合いが有る。是非写真を送って欲しい

* 例として 広葉樹の小売りの所のタモの場合 T-4 ￥72,000

お引き合い物件 の例	タモ両耳付き板 T-4 2600 55 680 72000 円→57,600 円 写真を裏表四枚送って欲しい
お引き合い物件	
お引き合い物件	
お引き合い物件	
会社名	
担当者名	
ご住所	
電話番号	
ファックス番号	
メールアドレス	
その他ご希望事項	

〒 596-0011 大阪府岸和田市木材町 16-1

(株) 服部商店

服部雅章

電話 072-438-0173